

油流出への準備と対応における 石油産業団体の役割

PAJシンポジウム2010



IPIECA（国際石油産業環境保全連盟）とは？

- 主要な環境・社会問題に関し、石油・ガス産業の上流・下流両部門を代表する唯一の国際団体
- IPIECAは国連環境計画（UNEP）の設立に続いて1974年に設立され、国連との主要なコミュニケーション・チャンネルの役割を果たしている
- 国連（UNEP、IMO）と共にあるNGO
- 主要な活動分野
 - － 油流出に対する準備と対応
 - － 戦略的問題の評価
 - － 社会的責任
 - － 生物多様性
 - － 気候変動
 - － 燃料と輸送
 - － 健康

企業会員と団体会員



発表の内容



- なぜパートナーシップが必要か？
- パートナーシップの特長 — IPIECAの視点
- パートナーシップから学んだ教訓
- 計画策定におけるパートナーシップ
 - グローバル・イニシアティブ
 - OSPRI
 - WACAF
- 対応におけるパートナーシップ
 - 対応活動の統合
- 結論

なぜパートナーシップが必要か？



「・・・IMO（国際海事機関）の成功の基盤はパートナーシップにある。実際、パートナーシップはIMOの基本原則であり、中心には加盟158ヵ国政府間の協力関係があって、共同で国際的な海運を統治する基準および規約を策定・実施・監視している。パートナーシップによってこれまでに40以上の条約と数百に及ぶ議定書と決議が作成されており、それらが一体となって安全で環境にやさしく、かつ経済的な海運業の青写真を提供している。海運はグローバルな産業であり、われわれの目標はグローバルな場におけるグローバルなパートナーシップによってのみ実現される。」

IMO専務理事 ウィリアム・オニール
2000年7月

パートナーシップ — IPIECAの目的

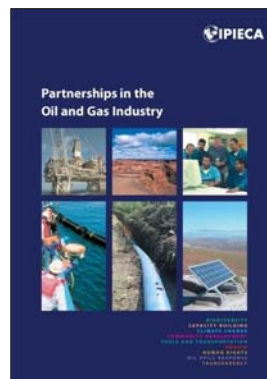


- 石油・ガス産業が持続可能な発展に寄与するために如何にパートナーシップを利用しているかを発信する
- IPIECA会員およびそのパートナーが課題および「教訓」を通じて、パートナーになるプロセスを探究する
- パートナーシップ形成のプロセスに関わるすべての石油・ガス産業の管理者に実用的な情報を提供する

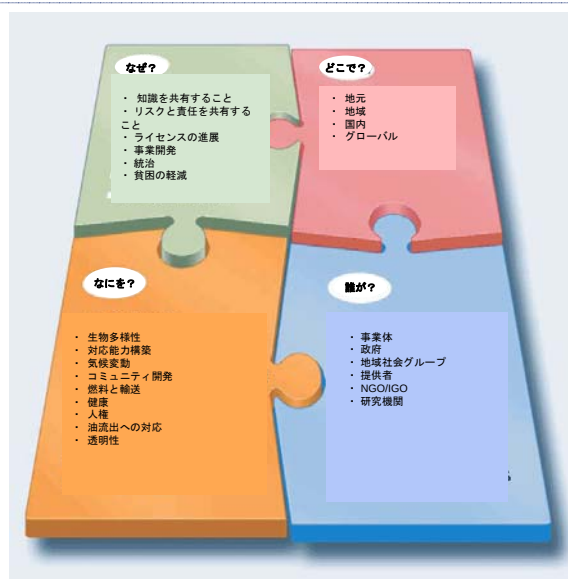
出版物の内容



- 事例研究から学んだ教訓
 - パートナiershipで活動する利点
 - 有効なパートナーシップのための実用的な助言
- テーマ別の事例研究
 - 生物多様性
 - 対応能力の構築
 - 気候変動
 - コミュニティの開発
 - 燃料と輸送
 - 健康
 - 人権
 - 油流出対応
 - 透明性・報告



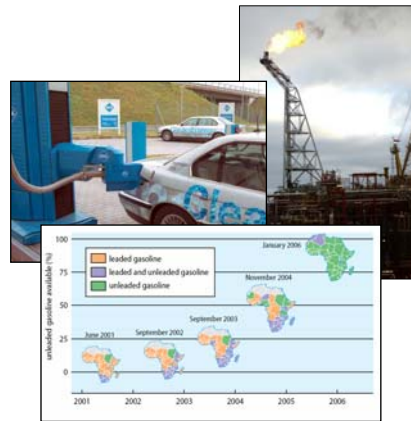
石油・ガス産業におけるパートナーシップ



石油・ガス産業におけるパートナーシップの例



- グローバルなフレアガス削減 (GGFR)
- CONCAWE、EUCAR、JRC による「原油生産から燃料消費まで (Well to Wheel)」の研究
- UNEPのクリーン燃料と自動車のためのパートナーシップ (PCFV)
- IPIECAグローバル・イニシアティブ



パートナーシップで活動する利点



- 持続可能な発展分野へより安全に踏みこむ
- より質の高いプロジェクト成果を実現する
- プロジェクトの長期持続可能性を促進する
- プロジェクトの発展と成長を促進する
- 関係者の関与を改善する
- 地元社会との開かれたコミュニケーション・チャンネルを構築する
- ホストコミュニティの地元経済開発に寄与する
- 地域またはグローバルの持続可能な発展活動の拡大に寄与する

-  パートナーシップの推進力
-  パートナーの選択
-  パートナーシップの構築
-  パートナーシップの管理
-  パートナーシップの成功の評価
-  合意と契約
-  終了戦略と移動

事例研究

グローバル・イニシアティブ（GI）の始まり



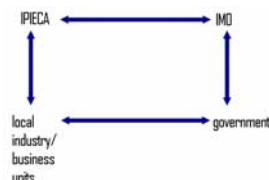
- OSRの問題に対処するため、1987年にIPIECAの油流出ワーキング・グループが設立された
- メンバー：
 - 22のIPIECA企業会員と団体会員
 - 技術パートナー：IMO、ITOPF、le CEDRE、OSRL、AMOSOC、UNEP、WCMC、PAJなど
 - 長期的な解決策として、業界および政府代表者の力を借りてグローバル・イニシアティブ（GI）プログラムが1996年に正式に発足した



IMO/IPIECAグローバル・イニシアティブ



- IMO/IPIECAグローバル・イニシアティブの目標
 - 各国における油流出対応・準備の国家体制の整備を支援する
 - 関連するIMO条約の批准と実施を促進する
 - 業界および政府による現地での所有を促進する
 - 油流出問題に対する業界／IMOの取り組みを実証する
- IMO/IPIECAの協力は1990年のOPRC条約に由来しており、同条約は行政当局に対し、石油および海運業界と協力してグローバルな油流出対応能力を整備するよう求めている





1. 地中海（MOIG）
2. 黒海、カスピ海、中央ユーラシア（OSPRI）
3. 西・中央アフリカ（GI WACAF）
4. 広域カリブ海
5. 東南アジア海域
6. 北西太平洋

- OSWGの技術パートナー（IMO、OSR、CCA、ITOPFなど）は、GIプログラムに多大な財政または現物支援を行っている
- 第三者（開発銀行、地域機関、政府間組織）が油流出防止・準備能力の整備に多大な投資を行なっている
- GIグループと活動内容が類似している他の「第三者」によるプログラムに、重複や有害なメッセージを避けるよう積極的に働きかけることにより、業界に大きな潜在利益をもたらしている

- 体制は非効率的であった。「その場かぎり」の取り組みから脱却し、協調的かつ持続可能なGIプログラムを策定する必要がある
- 当初のプログラムはロンドンのIMOとIPIECAが所有し運営していた。現地の対応能力を構築する地域的な取り組みを策定することが望ましい
- GIプログラムは、ロンドンのIMOとIPIECAの代表者の支援を受けて、現地で所有・管理・運営される必要がある。困難な地域（WACAFなど）では、OSRLなどの組織から包括的な支援を受けて再編の一部が行われた
- 各地域には専任のプロジェクトマネジャーとコンサルタントがいる



国名	OPRC 1990		1992 CLC		1992 Fund	
	2003	2009	2003	2009	2003	2009
ブルガリア	✓	✓	✕	✓	✕	✓
グルジア	✓	✓	✓	✓	✓	✓
ルーマニア	✓	✓	✓	✓	✕	✕
トルコ	✕	✓	✓	✓	✓	✓
ウクライナ	✕	✕	✕	✓	✕	✕
ロシア	✕	✓	✓	✓	✓	✓
アゼルバイジャン	✕	✓	✕	✓	✕	✕
イラン	✓	✓	✕	✓	✕	✓
カザフスタン	✕	✕	✕	✕	✕	✕
トルクメニスタン	✕	✕	✕	✓	✕	✕

- 事業部門が主導・推進
- 専任の調整要員
- 段階 2の協力体制の推進役として機能
 - 段階3の促進も含む
- 統一された主張
 - 一貫したメッセージ
 - 認められ、信頼される代弁者

目標

油流出対応能力を強化し演習、訓練、研修会を通じて業界・政府間のパートナーシップを形成すること



ExxonMobil



PERENCO



実施状況（2008年～2009年）

- 活動を11回実施
 - 研修会
 - 演習
 - 訓練
- 7回の全国研修会を実施の予定
- 1回の地域研修会



実施した活動



全国研修会

- NOSCPの策定
- 油処理剤の使用
- センシティビティ・マップの作成



演習

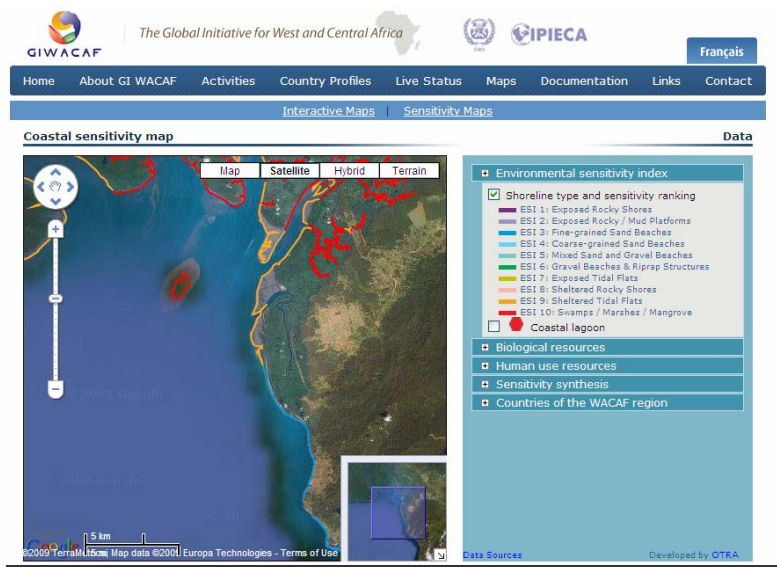
- 本格的演習
(業界、政府)
- 机上
- 展開



訓練

- OPRCレベル1
- OPRCレベル2
- OPRCレベル3

支援用ツール



WACAFの目標案（2010～2014年）

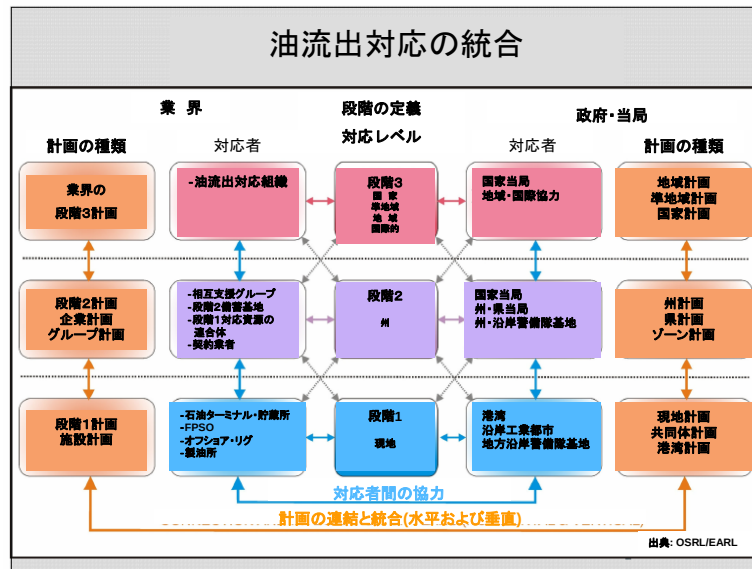


- 組織の有効性と運用能力を高める
 - NOSCPを実証するための政府・業界の演習（税関、出入国、保安）
 - 段階2の協同対応組織の機材
- 油流出対応に関する国家機関の強化
 - 緊急時対応計画
 - 法律（OPRC 1990、CLC 92、FUND 92、バンカー条約など）
- 地域のパートナーシップの強化
- プロジェクト体制の強化
 - 活動中心のネットワーク

OSPRIとWACAFの違い



- OSPRIとWACAFはともに成功している
- 取り組み方は似ているが、ニーズが異なるために活動もパートナーも異なっている
- パートナーシップに基づく地域モデルを使った機能的な取り組みが、二つの非常に異なる地域で成功している…



3つの行動規範

共通の価値を基盤とすること

なぜなら、成功するパートナーシップは価値によって推進される

創造的であること

なぜなら、どのパートナーシップも独特なものである

勇敢であること

なぜなら、すべてのパートナーシップはリスクを伴っている

ご清聴ありがとうございました